



第 585 号

発行所

天理教北海道教務支庁  
札幌市中央区南 8 条西 11 丁目  
電話 011 (561) 1148  
FAX 011 (561) 1190  
E-mail tenrikyo.hk@gmail.com  
ホームページ  
https://tenrikyohk.com



# 『真冬の集い』 — 学生会 —

## 真冬の集い 学生会



すべて喜び  
すべておたすけ  
北海道教区

教祖 140 年祭 北海道教区スローガン

1 月 28 日午後 3 時、教務支庁を会場に 1 泊 2 日の学生会行事「繋ぐ真冬の集い」が開催され、道内の学生 14 名、学生担当 16 名が参加した。

今回の行事は、春の学生おどりがえり（＝春学）や普段の学生会活動に興味をもって貰うことを目的に企画され、学生

が中心となって準備を進めてきた。集合したばかりの 1 日目は硬い表情が見られた参加者も、アイスブレイクやグループワークを通して少しずつ打ち解け合い、2 日目に行われたメイン行事の外遊びの頃には皆笑顔一杯に楽しんでいった。

を示してくれた学生や、「春学に行ってみよう」という思いになってくれた参加者も現れ、有意義な時間を過ごす事が出来た。

参加してくれた学生たちよりも一度同様の集まりを持ちたいとの声が上がったため、2 月 19 日、「ぶどう（真冬の集いⅡ）」を開催する事となり、学生 18 名、学担 8 名が参加した。



高橋学生担当委員長は、「一人でも多くの学生を春学へお誘いしたい、一人でも多くの学生と繋がりを持ちたいという気持ちです」と話した。



新たなスタッフとともに

2 日間  
の行事を経て、学生会スタッフとなり、「学生会に行きたくないか迷っている学生の皆様！一度学生会に足を運んでくれませんか、一度学生会の



真剣にお話を拝聴



楽しく雪合戦



真冬の集いⅡ

春学や学生会活動に興味を持たれた方は、是非とも学担にご連絡下さい！ QR コードを読み込むと春学の要項をご覧いただけるので、是非アクセスして下さい！



北海道教区のホームページ〈<https://tenrikyohk.com>〉で教区報がご覧頂けます

### 『洞爺湖町と協定』 室蘭支部

#### 室蘭支部

室蘭支部(秦野聖一郎支部長)では、1977年の有珠山噴火時の救援活動を機に洞爺湖町での植樹や除草、洞爺湖マラソン等様々な場面でひのきしんをさせて頂き、洞爺湖町との関係を築いて参りましたが、近年の各地で多発する自然災害や周期的に有珠山噴火が警戒される中、災害時スムーズな救援活動が行えるよう洞爺湖町との連携を深めていく必要があるとの思いから、2020年8月室蘭支部災害対策委員会を発足させて頂きました。

その後、洞爺湖町との協議を重ね、この度2023年2月1日防災協定締結に至りました。



室蘭支部長と洞爺湖町長

下道英明洞爺湖町長からは「発災時の初動から除灰等の復旧作業、更には町民が避難所から家に戻り元の生活に戻るまでの長いスパンでの協力をお願いしたい」との期待の言葉も頂きました。

今後は更に話し合いや訓練を加速させていくと同時に、お道の信仰者らしいひのきしんの精神を再確認し、災害に対しての備えを進めていきたいと協議を重ねております。(支部社友高村)

### 冬季訓練

#### 災救隊

##### ●富良野支部隊

1月28日、富良野支部災救隊(今井宏輔隊長)では、上富良野町において、社会福祉協議会(社協)より依頼された町内住宅の屋根の雪降ろし、除排雪作業を行った。

朝は、快晴で23℃まで冷え込み、極寒の中での訓練となった。8時30分に上富良野分教会で参拝し点呼して出勤。作業開始時には-17℃という屋根雪降ろしには最適な環境で、それぞれ勇んで声を掛けあい、



上富良野町

除排雪を行った。今年の積雪量の多さにめげずに、青年層からOBメンバーまで一致団結して無事怪我なく作業を終えた。参加者9名。(支部隊長今井)

##### ●空知支部隊

1月30日、空知支部災救隊(眞鍋顕成隊長)では、砂川市、上砂川町にて冬季訓練を実施



上砂川町

し、隊員18名が参加した。砂川市・上砂川町の社協依頼の独居老人宅の玄関や窓の周辺、軒下、物置の雪下ろしなど5軒行った。上砂川町社協の方より隊員への感謝と、勇んだ除雪姿に感激したと解散式で挨拶があり、その後解散となった。

##### ●南空知支部隊

1月31日、南空知支部災救隊(富山知一隊長)は、三笠市社協より依頼された住宅8軒の屋根の雪下ろし、窓周辺の除雪作業を隊員17名が参加して冬季訓練を実施した。



三笠市



小樽市

##### ●小樽支部隊

2月11日、小樽支部災救隊(久米田忠彦隊長)は冬季訓練を行い、隊員4名が参加。福祉除雪対象の2世帯の除雪を小樽市社協へボランティア登録をして実施した。(ボランティア登録の為ヘルメット未着用)

##### ●天龍支部隊

2月19日、天龍支部災救隊(佐藤靖幸隊長)は冬季訓練を実施し、隊員12名が参加した。当日は、深川市社協と連携して、市内の高齢者住宅を含む4軒の除雪作業に汗を流した。窓の雪を除雪してもらい家の中が明るくなって嬉しいと、住民から感謝の言葉をかけてもらい、隊員たちはとても清々しく勇んだ気持ちで解散した。(支部社友布野)



深川市

ケレドモのお供えとお下がり

— 富良野支部長 大佐古稔 —



教祖は教えを人々に理解しやすいようにと、しばしば諭を  
持つて説き聞かせ、頑まない子  
供をはぐくみ育てるように伝え  
導かれました。

少年会員のみならず、人様に  
教えを分かり易く伝え、理解し  
てもらおうのは本当に難しいこと  
だと痛感しておりますが、そん  
な中、もう20年以上も前ですが、  
兵庫教区布教部が発刊した印刷  
物の中に「ケレドモのお供えと  
お下がり」という成程誰でも分  
かり易い諭話が在りました。以  
下文章の一部・・・

『ある人が、私に「ケレドモ  
信心」は駄目だと面白い話をし  
た事があります。それは、我々  
は日々親神様の前に神饌を献じ  
ます、そうして午後にはそのお  
下がりを頂きます。大根をお供  
えして置いたら、大根のお下が  
りを、ニンジンを上けて置いた  
らニンジンのお下がりを頂きま  
す。上げて置いた通りの物のお

下がりをご頂戴するのでありま  
す。そこで例えて言う教会か  
ら或る人に向かって、「あなた  
別席を運びなさい、修養科へ  
入ったらどうですか」と言われ  
て、「サアそうしたら良いので



な御用がありますので、これに  
御恩報じたらどうですか」と  
言われても「サアそうしたら良  
いのですケレドモ、一寸都合が  
悪いので」と又三宝へ1台のケ  
レドモのお供えをして置く。  
このようにして親神様へ、3  
台のケレドモと言うお供え物を  
献じて置いたら、後日その家に  
大きな事情身上の迫った時に  
「どうか親神様お助け下さい」  
と願っても親神様は、「お前を  
助けてやりたいのやケレドモ」  
と言って、そのケレドモのお下  
がりを3台頂戴せねばならない  
事になります。  
大根を上げて置いたのに鯛の  
焼物に変わっていったというこ  
とがありません(中略)故に、我々  
は成つてくる理、現れてくる理  
に、日々気をつけて思索してゆ  
かねばなりません。  
なか／＼このたびいつれつに  
しつかりしあんをせにやらんら  
すケレドモ、今、家の都合が悪  
いので」とケレドモを三宝にの  
せて1台を親神様にお供えして  
おく。  
次の月にまた教会から先生が  
来て、「今度、御本部にかよう  
す。

定例にをいがけ  
やまびこ会

布教を志す者の会「やまびこ  
会」では、1月16日、2月19日  
に定例の布教活動を行った。  
1月は布教の家北海道寮寮長  
鷺津孝幸先生(千恵広・月寒分)

の布教講話を聞いた。  
先生は、3年前にがんという  
大きな身上手入れを頂かれた節  
をもとに、そこに込められる親



戸別訪問

神様の親心を思索し、成人の歩  
みを心定めして「がん消失」の  
不思議なご守護を頂かれまし  
た。

この身上の節から信仰すること  
とで感じた有難さを実感したと  
いいます。身上かしもものからも  
の理。縫(すが)る凭(もた)  
れることのできる「親」の存在。  
そしてつとめときづけにより  
救かりを願ってくださいました方  
の誠実の心。不自由を通して生  
かされていることに気づき、目  
の前にある旬の御用を精一杯に

つとめる心定めの大切さ。因縁  
を自覚するとは伝えること(に  
をいがけ)だと話された。  
因縁の納消は喜ぶこと。喜ぶ  
ということをやや孫へ伝えたい  
(にをいがけ)から同じ事  
を代々に見せられるのだと。

先生は戸別訪問の時に意識し  
ていることがあるという。それ  
は断られるとき神様の言葉で切  
る。切れ間がいいと繋ぎがいい  
からと。伝えるということでは  
縁を自覚し、喜び心で因縁を納  
消してゆく。これがにをいがけ  
の本質であると。

次回活動予定 3月12日(日)  
13時30分 教務支庁集合  
(代表藤野充普)

レポート  
年祭活動各地の動き

●函館支部では、有志数名にて  
毎日、神名流しを実施。三年千  
日毎晩行う予定。



詳細はホーム  
ページにて

教務支庁  
ふせこみひのきしん

1 月 29 日、教務支庁において 1 回目となる「教務支庁ふせこみひのきしん」が行われ、15 名が参加した。

教区では、毎月 29 日をふせこみひのきしん日として、「所属の教会が遠方で、なかなか足を運べない…」

「年祭活動、何をしたらいいのかな…」

そのような方にも参加して頂ければとの思いもあり、遠近を問わず大勢の方にひのきしん実践



2 人でカバー交換



リレーで布団を



スリッパの除菌



畳のから拭き

を促している。

受付で参加カードに記入後 10 時より中村主事の挨拶、その後参拝をしてからひのきしんを開始。

宿泊者の掛け布団カバーの交換、スリッパをアルコールで拭き除菌した。また神殿の畳のから拭きも行った。

学生会行事中の学生もカバー交換をする布団移動のリレーに加わり、賑やかで終始笑顔あふれ楽しいひのきしんとなった。

参加者からは、「皆さんと勇んですると楽しかったので、あつという間の時間でした。」

また「以前も支部の庁舎ひのきしんもありましたが、それも含めて今回、はじめてひのきしんに参加させてもらいまいました。今日のこの日が楽しみで待ち遠しかったです。

自分の年祭活動として、何よ

りも優先して今後も来させてもらおうと思っています。」と感想を頂いた。

木岡主事は、「年祭活動がまだ決まっていない方は、このふせこみひのきしんをさせて頂く事も活動になるので、今後もお誘いして来てほしい」と挨拶。全員で参拝しひのきしんを終えた。

●ふせこみひのきしんは、教務支庁にて毎月 29 日に実施。

ふせこみひのきしん 教祖 140 年祭 2023 年 1 月 29 日 (日) 13:00-15:00 開催 札幌北西支部 庁舎内  
QRコード  
詳細は、HP にて

■ 庁舎ひのきしん

2 月 13 日には、札幌北西支部の皆様より庁舎内を清掃下さいました。

北海道教務支庁日誌抄

計報

立教一八五年・令和 4 年

川上 道春様 11 月 12 日出直 (89 歳)

北標津分教会長 (銅根支部)

宮澤 榮次様 11 月 28 日出直 (83 歳)

輪梁分教会長夫人 (室蘭支部)

岩谷 良子様 12 月 5 日出直 (73 歳)

漁分教会長夫人 (千恵広支部)

今井 百子様 12 月 18 日出直 (90 歳)

北鷹分教会元会長夫人 (旭川支部)

水島 ツル様 12 月 18 日出直 (89 歳)

北檜山分教会前会長 (渡島支部)

高橋 三郎様 12 月 26 日出直 (99 歳)

結実分教会前会長 (空知支部)

立教一八六年・令和 5 年

伊藤 慶蔵様 1 月 25 日出直 (86 歳)

平洋分教会長 (日高支部)

—— けいじばん ——

◎法律に関わる諸問題でご相談の方は弁護士を紹介致します。教務支庁書記・渡部までご連絡下さい。

◎毎月 26 日に本部月次祭選擇式を午前 10 時より行っています。

◎ホームページでは、教区報に未掲載の記事や投稿いただいた記事も随時掲載しています。また記事の投稿もよろしくお願ひ致します。